

美しい本能

2024. 7. 18

人間には、本能というものがある。能力を発揮するための5つの言葉ともいうべき美しい本能がある。それが、「生きたい」「知りたい」「仲間になりたい」「伝えたい」「自分を守りたい」である。これらを生かすことができれば、人はすばらしい力を発揮することができる。

「生きたい」普段は、このことを意識することはそうないだろう。ところが、命に関わるようなピンチを迎えたとき、絶体絶命の危機に陥ったときに、この本能が威力を発揮するのだと思う。自分自身では、そういった経験はまだないが、映画やドラマ、報道や本などでは、何度も人の「生きたい」という本能を見てきた。人に備わっている本能のうちでも最も大切なものなのかもしれない。

「知りたい」学校の先生は、子どもたちが、この本能をもっているということを、もう少し認識した方がよいのではないか。大人が思っている以上に、子どもの知りたいという気持ちは強い。今の学校が、教育が、それに応えているのかという疑問である。もっと子どもの知りたいという気持ちを大切にしながら教育活動を展開できればと思う。

「仲間になりたい」人は、この本能をもっているために、集団や組織をつくりたがるのかもしれない。グループ、班、会など、それぞれの仲間には名称がつく。仲間意識が生まれる。人には、どこかに所属していたいという気持ちがある。所属の欲求である。これも、学校教育で生かすことができる。

「伝えたい」この本能こそ、学校はもっと認識するべきである。伝えさせてもらえない学校になってはいないだろうか。伝えるには、話したり、書いたりしなければならない。どのくらい、そういった場面があるだろうか。伝えさせてもらえないために、伝えようとしなくなってしまうのかもしれない。子どもは、もっともっと伝えたいのである。

「自分を守りたい」人には、自己防衛本能のようなものがある。これが、いい方に出る場合と、そうでない場合がある。自分を守れない人が、他の人を守るといのはむずかしいだろう。自分を守ることができる人になってほしいと思う。

人には、様々な本能があるが、これらの5つは、美しい本能である。学校という場を使って考えてみたが、これは幼稚園でも家庭でも同じである。本能というものは、元々もっているものだろう。だとしたら、それは生かしやすいものなのではないか。本能を生かすことができれば、人はもっともっと能力を発揮できるはずである。本能とは、ある行動へと駆り立てる性質のことである。美しい本能であれば、それをうまく使った方がよい。